

|| 企業調査レポート ||

ソフト 99 コーポレーション

4464 東証 2 部

[企業情報はこちら >>>](#)

2018 年 12 月 25 日 (火)

執筆：客員アナリスト

佐藤 譲

FISCO Ltd. Analyst **Yuzuru Sato**



FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

業績動向

2019 年 3 月期第 2 四半期累計業績は増収減益だが、 期初計画は上回る

1. 2019 年 3 月期第 2 四半期累計業績

2019 年 3 月期第 2 四半期累計の連結業績は売上高が前年同期比 5.3% 増の 12,282 百万円、営業利益が同 19.8% 減の 1,142 百万円、経常利益が同 17.9% 減の 1,225 百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益が同 16.1% 減の 831 百万円と増収減益となったものの、期初計画に対してはいずれも上回って着地した。売上高は全事業セグメントで増収となったが、人件費の増加（約 1.3 億円）や原材料価格や運賃の上昇による影響（約 2.7 億円）、設備投資増強に伴う減価償却費の増加（46 百万円）が減益要因となった。

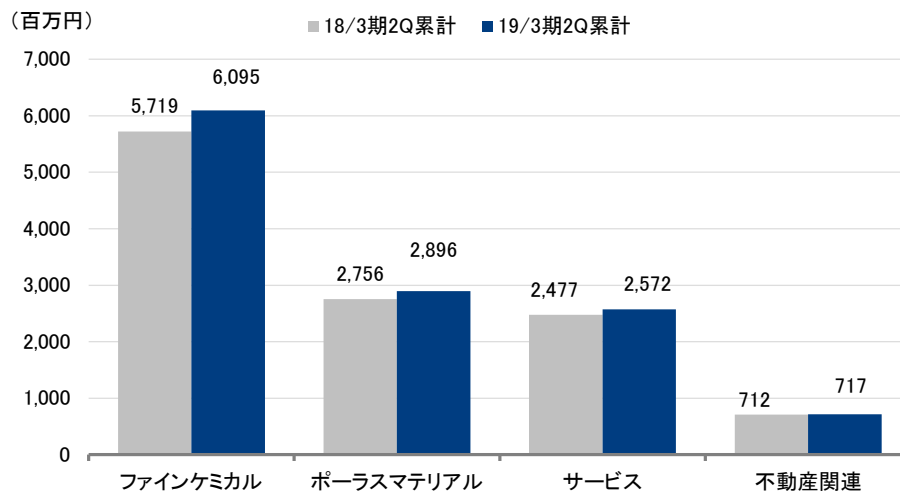
2019 年 3 月期第 2 四半期累計業績（連結）

（単位：百万円）

	18/3 期 2Q 累計		会社計画	19/3 期 2Q 累計			
	実績	対売上比		実績	対売上比	前年同期比	計画比
売上高	11,666	-	12,000	12,282	-	5.3%	2.4%
売上総利益	4,453	38.2%	-	4,333	35.3%	-2.7%	-
販管費	3,029	26.0%	-	3,191	26.0%	5.3%	-
営業利益	1,423	12.2%	900	1,142	9.3%	-19.8%	26.9%
経常利益	1,493	12.8%	1,000	1,225	10.0%	-17.9%	22.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	990	8.5%	700	831	6.8%	-16.1%	18.7%

出所：決算短信よりフィスコ作成

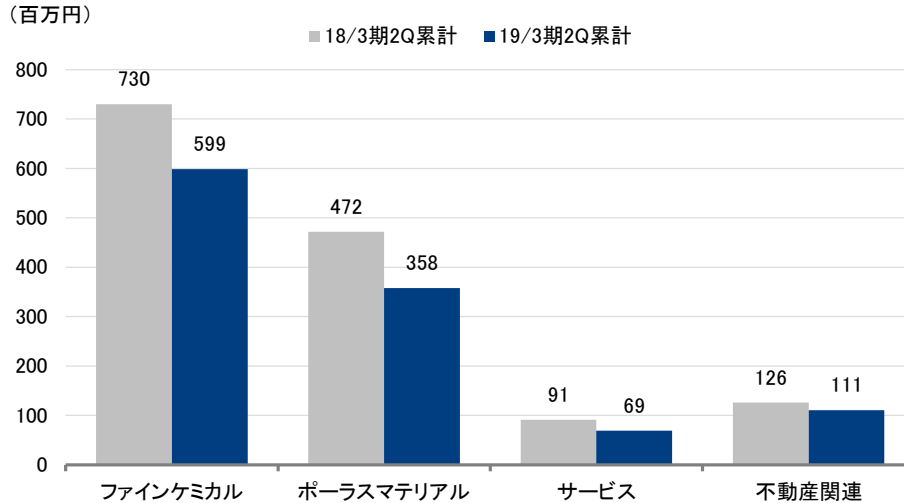
セグメント別売上高



出所：決算短信よりフィスコ作成

業績動向

セグメント別営業利益



出所：決算短信よりフィスコ作成

事業セグメント別の業績を見ると、ファインケミカル事業は売上高で前年同期比 6.6% 増の 6,095 百万円、営業利益で同 17.9% 減の 599 百万円となった。一般消費者向け販売（自動車分野）は豪雨や地震、台風など相次ぐ自然災害によりカー用品店の来店客数が減少したことや、前年のタイヤ購入の駆け込み需要によりカー用品の関連購買が進んだことの影響で、前年同期比 0.3% 減と微減となったものの、業務用製品については同 17.1% 増と好調に推移した。コーティング剤が中古車販売店向けや自動車メーカー向けに好調に推移したほか、輸入車ディーラー向けに撥水ワイパーの導入が始まったことも増収要因となった。海外向けは同 5.1% 減、家庭用品販売は同 0.3% 減とそれぞれ微減にとどまった。利益面では、人件費の増加や原材料価格の上昇が減益要因となった。なお、2018 年 3 月期より連結子会社となったソフトウェア開発会社の（株）ハネロンは、売上高で 304 百万円、営業利益はほぼ収支均衡水準だった。

ポーラスマテリアル事業の売上高は前年同期比 5.1% 増の 2,896 百万円、営業利益は同 24.3% 減の 358 百万円となった。売上高は産業資材における半導体製造装置メーカーへの洗浄用部材や HDD の研磨用部材が好調に推移し前年同期比 4.3% 増となったほか、生活資材も国内でカー用品店向けの販路開拓が進んだことにより同 7.2% 増と順調に拡大した。利益面では、原材料価格の上昇や設備投資増に伴う減価償却費の増加が減益要因となった。

サービス事業では自動車整備・钣金事業の増加等により前年同期比 3.9% 増収となったが、営業利益は自動車教習所の人件費増や燃料費の値上がりにより同 23.9% 減益となった。また、不動産関連事業では売上高が同 0.7% 増となったが、温浴事業における人件費や修繕費の増加により営業利益は同 11.8% 減益となった。

人件費や戦略投資の増加により 2019 年 3 月期は減益となるも、4 期連続増収へ

2. 2019 年 3 月期業績見通し

2019 年 3 月期の連結業績は、売上高で前期比 2.5% 増の 24,000 百万円、営業利益で同 19.9% 減の 2,200 百万円、経常利益で同 20.6% 減の 2,300 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で同 16.6% 減の 1,600 百万円となる見通し。主力 2 事業を中心に売上高は計画をやや上振れする可能性はあるものの、下期は開発費や販促費の増加が想定されるため期初計画を据え置いた。セグメント別売上高では、ファインケミカル事業で前期比 4.8% 増、ポラスマテリアル事業で同 1.8% 増を見込んでいる。

2019 年 3 月期連結業績見通し

(単位：百万円)

	18/3 期		19/3 期		
	実績	対売上比	会社計画	対売上比	前期比
売上高	23,413	-	24,000	-	2.5%
営業利益	2,747	11.7%	2,200	9.2%	-19.9%
経常利益	2,895	12.4%	2,300	9.6%	-20.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,919	8.2%	1,600	6.7%	-16.6%
1 株当たり利益 (円)	88.57		73.82		
1 株当たり配当 (円)	22.00		22.50		

出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 中期経営計画と株主還元策

ファインケミカル事業、自動車分野を中心に、新市場の開拓及び新技術の開発に注力

1. 中期経営計画の進捗状況

2018 年 3 月期よりスタートした中期経営計画では、最終年度となる 2020 年 3 月期に連結売上高 25,000 百万円、営業利益 2,700 百万円を経営数値目標として掲げている。売上高は射程圏内に入っているが、営業利益については人件費や原材料費の上昇もあってハードルがやや高くなっている。同社では成長戦略として、ファインケミカル事業、自動車分野を中心に新市場の開拓並びに新技術による新製品・サービスの開発を進めていくことで収益拡大を目指して行く戦略となっている。特に、ソフトウェア開発のハネロンを子会社化したことで開発力が強化されており、今後新事業における開発スピードの一段の加速が期待される。

ソフト99コーポレーション | 2018年12月25日(火)
4464 東証2部 | <http://www.soft99.co.jp/ir/>

中期経営計画と株主還元策

中期経営計画数値目標

(単位：百万円)

	17/3 期末実績	18/3 期末実績	19/3 期計画	20/3 期目標	年平均成長率 (17/3-20/3)
売上高	22,369	23,413	24,000	25,000	3.8%
営業利益	2,419	2,747	2,200	2,700	3.7%
経常利益	2,597	2,895	2,300	2,850	3.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,790	1,919	1,600	1,900	2.0%
ROA (経常利益 / 総資産)	5.2%	5.6%	-	5.2%	
ROE (純利益 / 自己資本)	4.1%	4.2%	-	4.0%	
総資産売上回転率 (売上高 / 総資産)	0.44	0.44	-	0.46	
ファインケミカル事業					
売上高	10,806	11,437	11,990	12,500	5.0%
営業利益	1,305	1,423	1,170	1,530	5.4%
営業利益率	12.1%	12.4%	9.8%	12.2%	
ポーラスマテリアル事業					
売上高	5,178	5,461	5,560	5,600	2.6%
営業利益	698	837	620	740	2.0%
営業利益率	13.5%	15.3%	11.2%	13.2%	
サービス・不動産関連事業					
売上高	6,383	6,514	6,450	6,900	2.6%
営業利益	406	478	410	430	1.9%
営業利益率	6.4%	7.3%	6.4%	6.2%	

注：目指す姿は、M&A 等により目指す収益増が実現した場合の参考値
出所：決算説明会資料、中期経営計画資料よりフィスコ作成

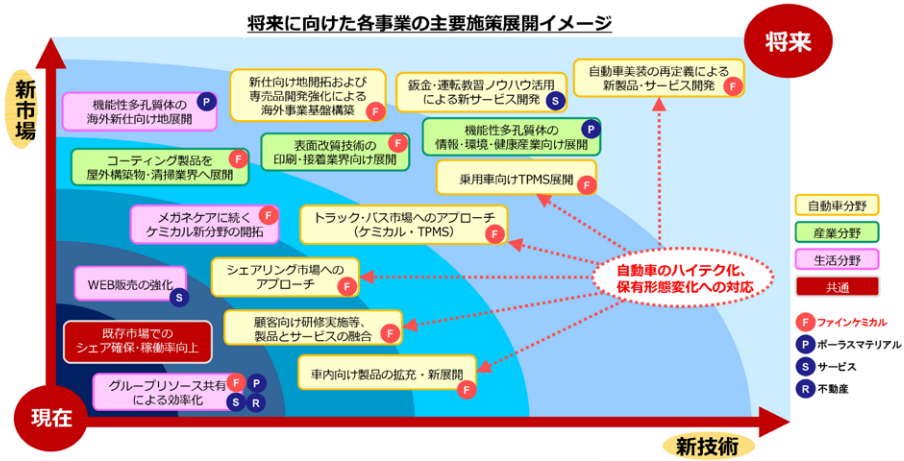
中期経営計画における取組施策の進捗状況として、成果が出始めているものとしては、ファインケミカル事業における海外事業の基盤構築が挙げられる。従来は、中国、ロシア、東アジア、東南アジアが主要仕向地先であったが、2018年3月期以降、欧州市場やブラジル、インドといった新興国でも販路の開拓が進み、売上げが増え始めている。特に、ブラジルやインドは乗用車の保有台数も今後拡大が見込まれることから、成長期待は大きい。

また、車内向け製品の拡充・新展開については、変化する消費者ニーズに対応した新製品（ガラス用クリーナーや洗車用品）を投入し、販売増につながっている。既存市場でのシェア確保では、ここ数年横ばい水準が続いていたリペア商品（補修ケミカル製品、補修ペイント等）の売上げが、当第2四半期累計では前年同期比6.6%増収と久しぶりに5%を超える増収となった。また、ガラスケア製品についても「ガラコ」シリーズを中心に業界シェアで約7割の水準まで上がってきた。業務用製品については高付加価値タイプのコーティング剤の採用が進んでいるほか、OEM製品についてもコーティング剤だけでなく、新たに撥水ワイパーの採用が決まり、2ケタ増収となっている。

TPMS（タイヤ空気圧監視装置）については、現在トラック・バス向けを中心に販売しているが、新たに特殊車両（重機、建機等）やライトトラックに対応した製品の開発を進めているほか、乗用車向けについても純正品の交換用製品の開発や、シェアリングカー事業者向けの開拓に取り組んでいる。

中期経営計画と株主還元策

中期経営計画の概要



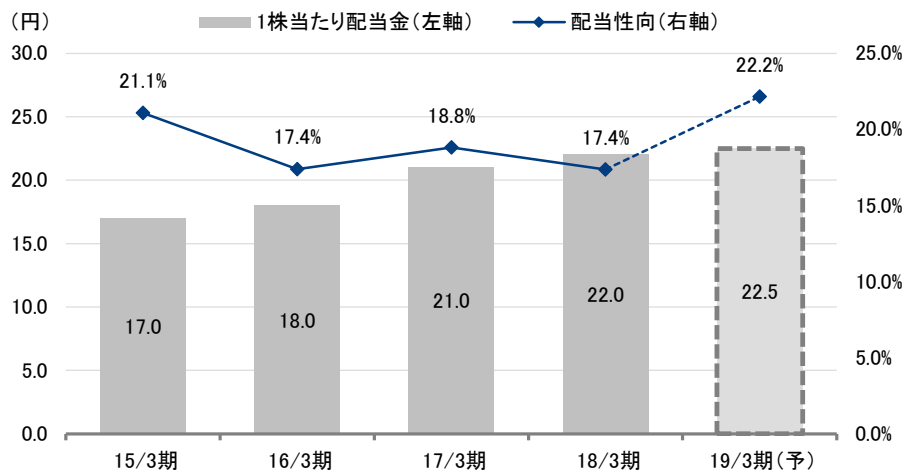
出所：決算説明会資料より掲載

株主還元は連結営業利益の 20% を目安に実施

4. 株主還元策

株主還元方針については、安定的な配当の継続と連結営業利益の 20% を目安とした還元を行うことを基本方針としている。2019 年 3 月期は 1 株当たり配当金で前期比 0.5 円増配の 22.5 円と 4 期連続増配を行うことを発表しており、営業利益に占める配当総額の比率は 22.2% となる。また、株主優待制度も導入しており、毎年 3 月末の株主に対して、保有株数・保有期間に応じた自社製品・サービスの提供を実施している。

1株当たり配当金と配当性向



注：配当性向 = 配当金 ÷ 営業利益

18/3 期は期中に実施した自己株式取得を含めると総還元性向で 20.8% となる

出所：決算短信よりフィスコ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

重要事項（ディスクレーマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ